

キャリア教育だより

群馬県立聾学校 進路指導部

令和8年 7月31日発行 No.2

「キャリア教育」という言葉を聞くと、「進路」や「就職」のための学習というイメージをもたれる方も多いかもしれません。しかし、キャリア教育とは、「自分の生き方を自分で考え、主体的に選択していく力」を育む教育です。

そのためには、まず自分自身をよく知ることが大切です。自分は何が得意で、何が苦手なのか、どのような支援があれば力を発揮できるのかを理解し、必要なときには自分の言葉で伝えたり、具体的な支援について相談したりする力が求められます。また、自分を知るためには、さまざまな体験を積むことが欠かせません。好きなことだけでなく、少し苦手なことにも挑戦してみることで、「できた」という成功体験だけでなく、「うまくいかなかった」という経験からも多くのことを学ぶことができます。その積み重ねが、自分の得意なことをさらに伸ばし、これから身に付けたい力に気づくきっかけになります。

夏休みは、学校とは違った経験ができる貴重な機会です。ぜひ、お子さんがさまざまなことに挑戦できる機会をつくっていただくとともに、「何が楽しかった?」「どんなことが難しかった?」「次はどうしてみたい?」など、ご家庭でお子さん自身について話し合う時間をもっていたければ幸いです。そのような対話の積み重ねが、お子さんの将来の選択や、自分らしい生き方を考える力につながっていくと考えています。



◆幼稚園◆

6月13日(土)保育参観を行いました。土曜日だったので普段は仕事で学校に来られないご家族の方がたくさん来てくれました。学部全員で遊戯室に集まり、親子ふれあい遊びをしました。大きな背中にぎゅーっとしがみついてコアラになったり、うまになったお父さんの背中に嬉しそうに乗ったりして、お父さんの力強さを感じていました。学年ごとの活動では、一緒に色々な遊びをしたり、お父さんの小さい頃の話をきいたりしました。写真や実物を使って説明していただいたので子どもたちは真剣な表情で聞いていました。



◆小学部◆

3年生は、6月30日にヤオコーの社会科見学に行きました。スーパーマーケットの裏側を見せていただいたり、店員さんに気になったことを質問したりすることができました。レジの人だけではなく、魚をさばく人、商品の仕入れを管理する人など、たくさんの人が役割を分担し、チームで協力してお店を動かしていることを学びました。

4年生は、6月8日に敷島浄水場と六供清掃工場の社会科見学に行きました。敷島浄水場では、水をきれいにする仕組みやきれいな水を家庭に届ける仕組みを学びました。六供清掃工場では、ごみの処分方法について知ることができました。私たちの当たり前の生活を支えてくれている働く人に感謝し、自分も社会の一員として、ごみの分別や節水など責任ある行動をとる必要があると気づくきっかけにもなりました。



◆ 中学部 ◆

中学部では、進路学習の一環として、県内の高等学校について調べる活動を行いました。生徒たちは「群馬には高校がこんなにたくさんあるんだ。」「自宅の近くに高校があることを初めて知った。」「私の市では2つの高校が合わさって、1つの学校になった。」「工業高校や、商業高校、スポーツ科もある。学科やコースがたくさんある」と、高校について新しく知ったこと、改めて意識したことなどを話していました。高校調べを通して、様々な高校・学科・コース等があることだけでなく、自分たちの町や社会について知ることができました。



A組の生徒は、昨年度から継続しての作業学習として、郵便局から委託を受け、封筒作りやフライヤーの準備などの仕事に取り組んでいます。生徒たちは「納品するもの」と意識して真剣に

作業し、日々上達しています。この体験を通して、丁寧に作業すること、報告・連絡・相談することなど、将来の仕事をする上で大切なことを身につけられるよう取り組んでいます。



◆ 高等部 ◆

7月9日（木）の「企業採用担当者学校見学会」には、21社34名の人事担当者様にご来校いただきました。全体会では、学校概要の説明と聴覚障害者雇用に関する講演会を聴いていただきました。また、3グループに分かれていただき、生徒との懇談会を行いました。本校の生徒への理解を深めていただくとともに、生徒にも自分の特性や考えを伝える機会をもってもらうことを目的としています。生徒は、事前に各企業の業務内容を調べ、質問を準備して参加しました。



懇談会では、各企業の仕事や職場の様子などをお聞きするとともに、卒業後、社会人として働くために必要とされる力や心構えなどを教えていただくことができました。「コミュニケーションやチームワーク」「質問や相談」「心と体の管理」「仕事のやりがい」「モチベーションの保ち方」など、数々のテーマに合わせて和やかに懇談を進めることができました。生徒は「報告・連絡・相談が大切」「ほとんどの会社が筆談やUDトークなどを使っていたので驚いた」「コミュニケーション力の次に必要な力は、健康管理とルールを守る力」などとまとめていました。



◆ 寄宿舍 ◆

寄宿舍は小学生から高校生までの異年齢の児童生徒が生活しています。その中、寄宿舍生活のルールを上級生から下級生に伝えていますが、部屋の整理整頓も重要な伝達事項の一つです。ゴミの分別、週末の部屋の掃除の仕方等を丁寧に教えています。上級生は部屋長となり、責任を持って各々の部屋の環境美化やスムーズな部屋運営を担っています。

